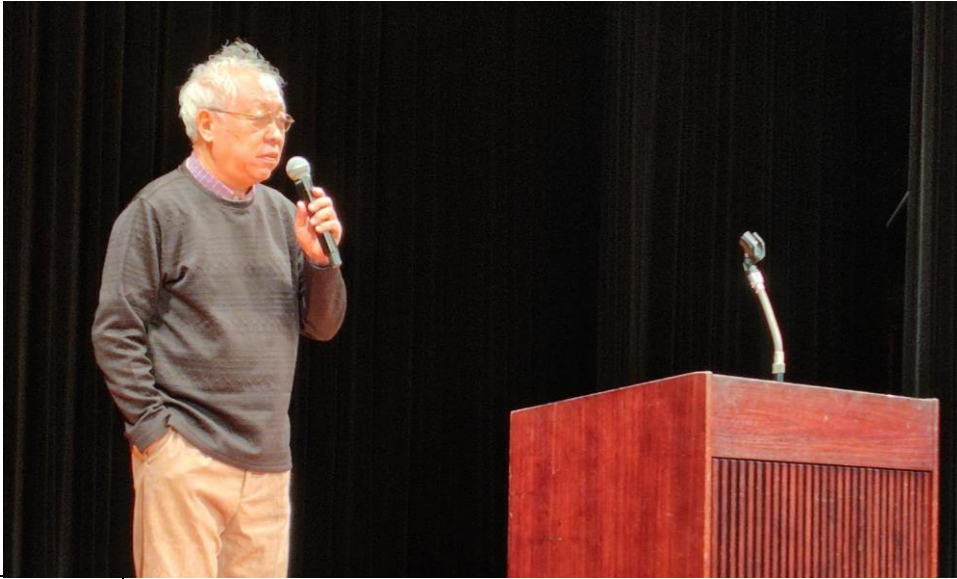


「力道山とプロレス文化」講座の概要

☆2024年11月14日（木）実施

講師： 岡村 正史 先生 プロレス文化研究会代表

場所：なるお文化ホール 出席人数：191名



講座の概要：

不世出のプロレスラー・力道山の100年目の公式誕生日（実際にはこの日ではないという説もある）の当日に、力道山の偉業と波瀾万丈の生涯、またプロレス文化に与えた影響を振り返るといふ趣旨の講座でした。

ご自身を「日本ではじめてプロレスを研究題材として博士号を取得した」と自認する岡村先生による解説は、すみずみまでプロレスを知り尽くした学者の知見をベースとしながらも、脱線話などを巧みに織り込む話術の妙とあいまって、観客の多くは先生のお話に魅了されていきました。

また良く言われる「はたしてプロレスはスポーツなのか、それともショーなのか？」という問いに対しては、以前行ったアンケート調査では「プロレスはショーだ」という回答が80%にのぼったことを引き合いに出しつつも、講座の結語では力道山の「プロレスはリングに上がるまでがスポーツなのだ。リングの上ではそうやって鍛えた体でいかに客を楽しませるかがレスラーの腕になる」

という言葉を用いし、多くのお客様の共感を得ていました。

講座の配付資料

https://www.fureai-cloud.jp/_view/nishihh/attach/get2/2458/0



講座のご評価：

「本日の講座はお客様が期待するようなものでしたか。」という問いに①「あてはまる」 114名 (64%)、②「どちらかといえばあてはまる」 51名 (29%)、③「どちらかといえばあてはまらない」 12名 (7%)、④「あてはまらない」 0名 (0%)、評価記入なしが14名でした。

お客様の感想としましては、肯定的なものは「先生の博識に驚いた」「先生のお話がお上手で引き込まれた」「テレビでプロレスを見ていた頃を懐かしんだ」「実業家であったなど、力道山の違う面が発見できた」「記念の年にふさわしい企画だった」などがありました。

否定的な感想としましては、「もともとプロレスに興味はなかったが、やはりお話に興味を惹かれなかった」などがありました。

お客様のご感想紹介：

「話の内容は、徹底した実証主義に基づく手堅い内容である。

それでいて、語り口は軽妙洒脱で聞きやすい。実に充実した、楽しい講座であった。」

「好きこそものの上手なれ！とでも言いたくなるような、面白いお話でした。しかも博士号まで修得されるとはビックリ。エンタメの世界をここまで追い求められたことに感服しました。」

「謎多き力道山の生涯、ひとつひとつのエピソードが想像力をかき立てる内容で、大変興味深く拝聴いたしました。(中略)岡村先生のご熱心なご研究、プロレスに対する率直なご姿勢、多岐・多様なご経験からのお話はとても内容が深く、濃く、実感を伴う面白さでございました。今後とも、一層のご活躍を頂き、さらなるご執筆に、ご講演に、ご活躍になりますことを願っております。」